



#4  
2673

PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of

Toshikazu IDE and Wataru KAGEYAMA

Appl. No.: 10/061,558

Group Art Unit: 2673.

Filed: February 1, 2002

For: METHOD FOR DISPLAY OF CONTENTS

Attorney Docket No.: 3883.008

RECEIVED

JUN 11 2002

Technology Center 2600

SUBMISSION CERTIFIED COPY OF PRIORITY DOCUMENT

Honorable Commissioner of  
Patents and Trademarks  
Washington, D.C. 20231

RECEIVED

JUN 12 2002

Technology Center 2100

Sir:

Attached please find the following:

1. Certified Copy of the Priority Document, Japanese Application No. 2001-325631, filed October 23, 2001.

Respectfully submitted,

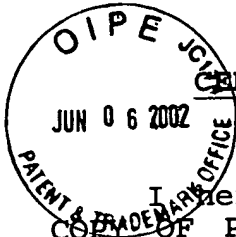
Stephan A. Pendorf  
Registration No. 32,665

PENDORF & CUTLIFF  
P. O. Box 20445  
Tampa, FL 33609  
(813) 886-6085

Date: May 31, 2002

U.S. Application 10/061,558  
SUBMISSION CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

Attorney Docket: 3883.008



CERTIFICATE OF MAILING AND AUTHORIZATION TO CHARGE

I hereby certify that the foregoing SUBMISSION CERTIFIED COPY OF PRIORITY DOCUMENT for U.S. Application No. 10/061,558 filed February 1, 2002, were deposited in first class U.S. mail, postage prepaid, addressed: Attn: Commissioner of Patents and Trademarks, Washington, D.C. 20231, on this 31st day of May, 2002.

The Commissioner is hereby authorized to charge any additional fees that may be required at any time during the prosecution of this application without specific authorization, or credit any overpayment, to Deposit Account No. 16-0877.

Stephan A. Pendorf



日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年10月23日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-325631

[ST.10/C]:

[JP2001-325631]

出 願 人

Applicant(s):

ココロネットワークス株式会社  
アトムショックウェーブ株式会社

RECEIVED

JUN 11 2002

Technology Center 2600

RECEIVED

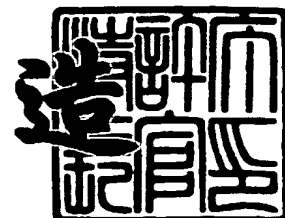
JUN 12 2002

Technology Center 2100

2002年 5月10日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3114136

【書類名】 特許願

【整理番号】 P01057

【提出日】 平成13年10月23日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 15/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都渋谷区恵比寿 2 - 2 9 - 2 - 3 0 4

【氏名】 井手 敏和

【発明者】

【住所又は居所】 東京都杉並区浜田山 1 - 7 - 6 - 1 0 3

【氏名】 影山 亘

【特許出願人】

【住所又は居所】 東京都渋谷区広尾 1 - 1 6 - 2 K & S 恵比寿ビル I I

【氏名又は名称】 ココロネットワークス株式会社

【代理人】

【識別番号】 100097113

【弁理士】

【氏名又は名称】 堀 城之

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 044587

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【物件名】 委任状 1

【援用の表示】 平成13年10月15日提出の包括委任状を援用する。

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 コンテンツ表示方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 インターネットなどネットワークを利用したコンテンツ表示方法であって、

コンテンツを供給するWEBサイトは、ユーザーの端末からのアクセスに対して、該端末のブラウザ上で動作可能なスクリプト言語を送信する第 1 のステップと、

前記スクリプト言語の制御に基づき、コンテンツを表示するためのコンテンツデータを前記端末に送信する第 2 のステップとを備え、

前記第 1 のステップは、前記ブラウザ上の前記スクリプト言語が、コンテンツ表示機能をONにするかどうかの機能選択とコンテンツ表示までのアイドル時間設定とを行う設定ウィンドウを開き、前記ユーザーに前記機能選択と前記アイドル時間設定との入力を促す第 3 のステップを含み、

前記第 2 のステップは、前記ブラウザ上の前記スクリプト言語が、前記ユーザーにより入力された前記機能選択と前記アイドル時間設定とに基づき、前記WEBサイトから前記コンテンツデータを受信し、前記端末が有するディスプレイなど表示手段に別のウィンドウを開いて前記コンテンツを表示する第 4 のステップを含む

ことを特徴とするコンテンツ表示方法。

【請求項 2】 前記第 3 のステップは、タイトルバーやステータスエリアなどの外枠を隠し、フルスクリーン表示されるスクリーンセーバーを、前記コンテンツとして前記表示手段に表示するステップを含むことを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ表示方法。

【請求項 3】 前記第 3 のステップは、商品情報や公共情報などを表示する広告を前記コンテンツとして前記表示手段に表示するステップを含むことを特徴とする請求項 1 に記載のコンテンツ表示方法。

【請求項 4】 前記第 3 のステップは、前記設定ウィンドウにおいて前記コンテンツのテスト再生指示を表示し、前記ユーザーによる前記テスト再生指示の

選択に従い、直ちに前記コンテンツのテスト表示をするステップを含むことを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法。

【請求項 5】 前記第 4 のステップは、前記アイドル時間設定において前記ユーザーにより設定された時間以上／越えて、前記ユーザーによるマウスやキーボードを利用したユーザーアクションがない場合、前記別のウィンドウを開くステップを含むことを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法。

【請求項 6】 前記第 4 のステップは、前記別のウィンドウが開いているとき、前記ユーザーによるマウスやキーボードを利用したユーザーアクションがあった場合、前記別のウィンドウを閉じるステップを含むことを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法。

【請求項 7】 前記第 4 のステップは、前記別のウィンドウにおいて、更に別のウィンドウへの遷移する、又は、新しい別のウィンドウを開くためのリンクを有する前記コンテンツを表示し、前記ユーザーによりマウスやキーボードを利用した前記リンクの選択があったとき、更に別のウィンドウへの遷移する、又は、新しい別のウィンドウを開くステップを含むことを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法。

【請求項 8】 前記第 4 のステップは、前記設定ウィンドウが開いている場合、前記コンテンツ表示機能を ON、又は、OFF の選択ができる状態を続け、前記設定ウィンドウが閉じたとき、前記コンテンツ表示機能を OFF にするステップを含むことを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法。

【請求項 9】 請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法におけるコンテンツの表示を実現できるコンピュータプログラムであって、請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法の各ステップを実行させることを特徴とするプログラム。

【請求項 10】 請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法を実行可能なプログラムが記録された記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はコンテンツ表示方法に関し、特にインターネットを介した端末へのコンテンツ表示方法に関する技術に属する。

【0002】

【従来の技術】

従来、ユーザー端末に表示されるスクリーンセーバーは、OSの機能の一部や別売リアプリケーションなどが利用されていた。また、WEBサイト間の広告表示を含む画面遷移は、各々ウィンドウの起動・終了や画面上のリンクを利用して行われていた。

【0003】

図7は、従来技術のWEBサイトにおけるウィンドウ120の表示例を示す図である。

【0004】

図8は、図7のリンク120Lから表示される他のウィンドウ130の表示例を示す図である。

【0005】

ウィンドウ120は、画面上にリンク先、又は、新しく表示されるウィンドウへのリンク120Lを有する。ウィンドウ120から他のウィンドウ130への画面遷移のように、WEBサイト間のリンクによる画面遷移は、マウスによるリンク120Lのクリックにより行われる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来技術には以下に掲げる問題点があった。

【0007】

ユーザーが好みのスクリーンセーバーを設定するためには、ソフトウェアやスクリーンセーバーモジュールを独自にインストールする必要があった。また、スクリーンセーバーモジュールを、インターネット経由でインストールする場合、必要記憶領域が最大数メガバイトにも及ぶソフトウェアやデータをダウンロード

後インストールする必要がある、初心者のユーザーにとっては、必ずしも簡単に設定できなかった。

【0008】

また、WEBブラウザを使用して通常のパナーなどによる広告表示をする場合、自WEBサイト内のリンクに関係する広告表示しかできないという問題点があった。

【0009】

本発明は斯かる問題点を鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、スクリーンセーバー表示にユーザー端末におけるWEBブラウザを使用することで、ソフトウェアのダウンロードやインストールの必要なく、容易にスクリーンセーバー機能を実現でき、また、他のWEBサイトを閲覧中でもユーザー端末に対して所定時間入力がなかった場合に、自動切換えによる広告表示を可能とし、広告表示の機会増大に繋げることができるスクリーンセーバーや広告などの表示するコンテンツ表示方法に関する技術を提供する点にある。

【0010】

【課題を解決するための手段】

請求項1記載の本発明の要旨は、インターネットなどネットワークを利用したコンテンツ表示方法であって、

コンテンツを供給するWEBサイトは、ユーザーの端末からのアクセスに対して、該端末のブラウザ上で動作可能なスクリプト言語を送信する第1のステップと、

前記スクリプト言語の制御に基づき、コンテンツを表示するためのコンテンツデータを前記端末に送信する第2のステップとを備え、

前記第1のステップは、前記ブラウザ上の前記スクリプト言語が、コンテンツ表示機能をONにするかどうかの機能選択とコンテンツ表示までのアイドル時間設定とを行う設定ウィンドウを開き、前記ユーザーに前記機能選択と前記アイドル時間設定との入力を促す第3のステップを含み、

前記第2のステップは、前記ブラウザ上の前記スクリプト言語が、前記ユーザーにより入力された前記機能選択と前記アイドル時間設定とに基づき、前記W



EBサイトから前記コンテンツデータを受信し、前記端末が有するディスプレイなど表示手段に別のウィンドウを開いて前記コンテンツを表示する第4のステップを含む

ことを特徴とするコンテンツ表示方法に存する。

請求項2記載の本発明の要旨は、前記第3のステップは、タイトルバーやステータスエリアなどの外枠を隠し、フルスクリーン表示されるスクリーンセーバーを、前記コンテンツとして前記表示手段に表示するステップを含むことを特徴とする請求項1に記載のコンテンツ表示方法に存する。

請求項3記載の本発明の要旨は、前記第3のステップは、商品情報や公共情報などを表示する広告を前記コンテンツとして前記表示手段に表示するステップを含むことを特徴とする請求項1に記載のコンテンツ表示方法に存する。

請求項4記載の本発明の要旨は、前記第3のステップは、前記設定ウィンドウにおいて前記コンテンツのテスト再生指示を表示し、前記ユーザーによる前記テスト再生指示の選択に従い、直ちに前記コンテンツのテスト表示をするステップを含むことを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載のコンテンツ表示方法に存する。

請求項5記載の本発明の要旨は、前記第4のステップは、前記アイドル時間設定において前記ユーザーにより設定された時間以上／越えて、前記ユーザーによるマウスやキーボードを利用したユーザーアクションがない場合、前記別のウィンドウを開くステップを含むことを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載のコンテンツ表示方法に存する。

請求項6記載の本発明の要旨は、前記第4のステップは、前記別のウィンドウが開いているとき、前記ユーザーによるマウスやキーボードを利用したユーザーアクションがあった場合、前記別のウィンドウを閉じるステップを含むことを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載のコンテンツ表示方法に存する。

請求項7記載の本発明の要旨は、前記第4のステップは、前記別のウィンドウにおいて、更に別のウィンドウへの遷移する、又は、新しい別のウィンドウを開くためのリンクを有する前記コンテンツを表示し、前記ユーザーによりマウスやキーボードを利用した前記リンクの選択があったとき、更に別のウィンドウへの

遷移する、又は、新しい別のウィンドウを開くステップを含むことを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法に存する。

請求項 8 記載の本発明の要旨は、前記第 4 のステップは、前記設定ウィンドウが開いている場合、前記コンテンツ表示機能を ON、又は、OFF の選択ができる状態を続け、前記設定ウィンドウが閉じたとき、前記コンテンツ表示機能を OFF にするステップを含むことを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法に存する。

請求項 9 記載の本発明の要旨は、請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法におけるコンテンツの表示を実現できるコンピュータプログラムであって、請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法の各ステップを実行させることを特徴とするプログラムに存する。

請求項 10 記載の本発明の要旨は、請求項 1 乃至 8 のいずれかに記載のコンテンツ表示方法を実行可能なプログラムが記録された記憶媒体に存する。

【 0 0 1 1 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて詳細に説明する。

【 0 0 1 2 】

図 1 は、本実施の形態に係るコンテンツ表示方法を実行する構成の一例を示す図である。

【 0 0 1 3 】

図 1 に示すように、本実施の形態に係るコンテンツ表示方法を実行する構成は、インターネット 100 などのネットワークを介して動画面などスクリーンセーバー（コンテンツ）のコンテンツデータ 20 DATA を供給する WEB サイト 10 と、供給されたスクリーンセーバーを表示する表示装置（表示手段）20 D を備えるユーザーの端末 20 とで概略構成され、スクリーンセーバーは、端末 20 側のブラウザにおいて実行可能なスクリプト言語 20 P により表示を制御される。

【 0 0 1 4 】

コンテンツデータ 20 DATA は、

端末 2 0 側のブラウザにおいて、WEB サイト 1 0 へのアクセスに従い WEB サイト 1 0 から送信されたスクリプト言語 2 0 P の動作と、ユーザーの端末 2 0 操作とに基づきコンテンツデータ 2 0 DATA を受信する。

## 【 0 0 1 5 】

スクリーンセーバー（コンテンツ）は、ブラウザの仮想マシンなどの動作環境上でスクリプト言語 2 0 P の制御に基づき、WEB サイト 1 0 から送信されたコンテンツデータ 2 0 DATA に従い表示装置 2 0 D にて表示される。

## 【 0 0 1 6 】

図 2 は、図 1 の端末 2 0 側（クライアント側）に表示されるウィンドウ 2 0 W の一例を示す図である。

## 【 0 0 1 7 】

図 3 は、図 2 のウィンドウ 2 0 W の設定リンク 2 0 L により開かれる設定ウィンドウ 2 0 S を示す図である。

## 【 0 0 1 8 】

インターネット 1 0 0 を介した WEB サイト 1 0 へのアクセスにより、端末 2 0 の表示装置 2 0 D には、WEB サイト 1 0 にて供給されるウィンドウ 2 0 W の画面が表示される。

## 【 0 0 1 9 】

ウィンドウ 2 0 W は、別ウィンドウとして表示される設定ウィンドウ 2 0 S を開くための設定リンク 2 0 L を有する。

## 【 0 0 2 0 】

端末 2 0 が有するマウスのクリックなどユーザーの操作により開かれた設定ウィンドウ 2 0 S において、スクリーンセーバーの表示設定を行うことができる。

## 【 0 0 2 1 】

図 3 に示すように設定ウィンドウ 2 0 S の画面には、スクリーンセーバー機能（コンテンツ表示機能）の ON、OFF を選択するための機能選択 2 0 T と、スクリーンセーバーが起動表示されまでに必要な時間であるアイドル時間設定 2 0 U と、直ちにスクリーンセーバーをテスト表示するテスト再生指示 2 0 X とが表示される。

## 【 0 0 2 2 】

図 4 は、図 1 の端末 2 0 に表示される別のウィンドウ 2 0 W 2 を示す図である。

## 【 0 0 2 3 】

別のウィンドウ 2 0 W 2 の画面となるスクリーンセーバー 2 0 C は、図 3 の設定ウィンドウ 2 0 S における機能選択 2 0 T やテスト再生指示 2 0 X に基づき表示される。

## 【 0 0 2 4 】

図 1 ～図 4 を参照して、別のウィンドウ 2 0 W 2 の起動表示を詳しく説明する。

## 【 0 0 2 5 】

図 3 の機能選択 2 0 T において、ON が選択されてスクリーンセーバー機能が ON になった場合、予め端末 2 0 に設定された J A V A S C R I P T や V B S C R I P T などスクリプト言語 2 0 P のプログラムが実行され、ユーザーによる端末 2 0 のマウスアクションやキーボードアクションの監視を行う。

## 【 0 0 2 6 】

アイドル時間設定 2 0 U において設定された時間以内／未満にユーザーがマウス操作やキーボード操作を行わなかった場合に、設定されたプログラムは、スクリーンセーバー 2 0 C が表示された別のウィンドウが起動表示される。

## 【 0 0 2 7 】

別のウィンドウ 2 0 W 2 は、タイトルバーやステータスエリアなどを隠した全画面表示の、スクリーンセーバー 2 0 C として立ち上げるので、ユーザーにはブラウザの新しくウィンドウが表示されたという感覚でなく、スクリーンセーバー 2 0 C が立ち上がったという感覚になる。

## 【 0 0 2 8 】

また、テスト再生指示 2 0 X による起動表示やアイドル時間設定 2 0 U におけるタイマー機能もスクリプト言語 2 0 P のプログラムにより制御される。

## 【 0 0 2 9 】

スクリプト言語 2 0 P は、時間経過を監視できる時間取得関数の呼出しを含む

下記の制御を行う機能を有する。

【0030】

(ア) 別のウィンドウ（ブラウザウィンドウ）20W2を表示する。その際、タイトルバーやステータスエリアなど一般のブラウザにより表示される外枠を隠す処理を行い擬似的にフルスクリーン処理を行い、ユーザーから見てブラウザに表示しているという感覚ではなく、スクリーンセーバー20Cの表示に適したフルスクリーンモードで表示する。

【0031】

(イ) ブラウザウィンドウ20W2において、WEBサイト10を提供するサーバーに蓄積されたスクリーンセーバー（コンテンツ）20Cを表示する。その際、ユーザーの選択に基づき、固定URLで表示する場合やWEBサイト10を提供するサーバー側からスクリーンセーバー20Cをランダムに表示するなどの選択ができる。

【0032】

(ウ) ブラウザウィンドウ20W2の表示中に、端末20におけるマウスアクションやキーボードアクションが行われた場合、ブラウザウィンドウ20W2を隠し、ユーザーが操作している元のスクリーン表示を復活させる。または、ユーザーがブラウザウィンドウ20W2に表示されたスクリーンセーバー（コンテンツ）20C上のリンク（図示せず）をクリックした場合、通常のブラウザ動作をして、リンクに対応する新しいスクリーンセーバー（コンテンツ）20Cを表示する。

【0033】

スクリーンセーバー20Cが表示されたブラウザウィンドウ20W2は、タイトルバーなどが表示されていないWEBウィンドウなのでスクリーンセーバー20Cの表示中も、マウスアクションなどユーザーアクションによりスクリーンセーバー20C上のリンクをクリックすれば、表示スキームの中でブラウジングを行うことができる。この場合、時間取得関数を利用したタイマー制御を中断して、ユーザーアクションを優先する。

【0034】

次に、コンテンツ表示方法の動作の流れを詳しく説明する。

【 0 0 3 5 】

図 5 は、図 1 における動作の流れの概要を示す図である。

【 0 0 3 6 】

従来技術における広告表示は、(a) のようにウィンドウ 1 2 0 が有する広告バナー (リンク) 1 2 0 L をクリックすることで広告 WEB サイト (他のウィンドウ) 1 3 0 を表示する。

【 0 0 3 7 】

一方、本実施の形態に係るコンテンツ表示方法においては、(b) のように従来どおり広告バナー 1 2 0 L のクリックによる他のウィンドウ 1 3 0 の表示も行えるが、設定リンク 2 0 L のクリックによりスクリーンセーバー設定ウィンドウ表示 A を行う。

【 0 0 3 8 】

この設定ウィンドウ 2 0 S において、スクリーンセーバーの機能を ON B にすることで、ユーザーアクションが所定の時間行われえない場合、別のウィンドウ 2 0 W 2 を起動する。

【 0 0 3 9 】

図 6 は、図 5 のスクリーンセーバー設定ウィンドウ表示 A における動作の流れを示すフローチャートである。

【 0 0 4 0 】

端末を操作するユーザーは、スクリーンセーバー設定ウィンドウ (コンテンツ表示設定ウィンドウ、設定ウィンドウ) 2 0 S において、スクリーンセーバー機能の ON、OFF とスクリーンセーバー 2 0 C の起動までの時間とを設定することができる。また、テスト再生をクリックするとスクリーンセーバー 2 0 C の内容を、ただちにテスト表示することができる。

【 0 0 4 1 】

設定ウィンドウ 2 0 S がオープンし (ステップ S 0 1)、ユーザーは、設定ウィンドウ 2 0 S を利用して、スクリーンセーバー 2 0 C が起動するまでの起動待ち時間を設定する (図中、秒数設定) (ステップ X 0 2)。このステップ X 0 2

は、随時行われる。

【 0 0 4 2 】

続いて、端末 2 0 のブラウザーにおけるプログラムの動作を説明する。

【 0 0 4 3 】

スクリーンセーバー機能が ON かどうか判断する（ステップ S 0 2）。

【 0 0 4 4 】

スクリーンセーバー機能が ON の場合（図中、Y E S）、時間取得関数を利用してユーザーのマウスアクションやキーボードアクションを監視することで、アイドル時間設定 2 0 U により予め設定されたアイドル時間が経過したかどうか判断する（図中、N 秒内にマウス／キーボードアクション？）（ステップ S 0 3）

【 0 0 4 5 】

アイドル時間が経過した場合（図中、Y E S）、別のウィンドウ 2 0 W 2 を開き、スクリーンセーバー 2 0 C を表示する（図中、スクリーンセーバーウィンドウを表示）（ステップ S 0 4）。

【 0 0 4 6 】

ユーザーのマウスアクションやキーボードアクションを監視し、ユーザーキャンセルアクションがあったかどうか判断する（ステップ S 0 5）。

【 0 0 4 7 】

ユーザーのマウスアクションやキーボードアクションがあった場合（図中、Y E S）、ユーザーキャンセルアクションがあったとして、別のウィンドウ 2 0 W 2 を閉じ、スクリーンセーバー 2 0 C を非表示にし（図中、スクリーンセーバーウィンドウ非表示）（ステップ S 0 6）、ステップ S 0 2 に戻る。

【 0 0 4 8 】

ステップ S 0 5 において、ユーザーキャンセルアクションがない場合（図中、N O）、所定時間のタイミングをとり、ステップ S 0 5 の動作を繰り返す。

【 0 0 4 9 】

ステップ S 0 3 において、アイドル時間が経過していない場合（図中、N O）、所定時間のタイミングをとり、ステップ S 0 3 の動作を繰り返す。

【 0 0 5 0 】

ステップ S 0 2 において、スクリーンセーバー機能が O F F の場合（図中、N O）、所定のタイミングをとり、ステップ S 0 2 の動作を繰り返す。

【 0 0 5 1 】

以上の動作を、端末 2 0 のブラウザーにおいて、設定ウィンドウ 2 0 S が閉じられるまで行う。これらの動作により、スクリーンセーバー 2 0 C の表示中に、ユーザーがマウス、又は、キーボードを操作した場合、J A V A S C R I P T などのスクリプト言語において、ポーリング（ループ）処理している動作が、そのユーザーキャンセルアクションによって起動し、スクリーンセーバーウィンドウ（別のウィンドウ）2 0 W 2 を閉じるので、スクリーンセーバーウィンドウ 2 0 W 2 の後ろに隠れていた操作中のウィンドウが再び表示される。ユーザーには、スクリーンセーバー 2 0 C から復帰したように見える。

【 0 0 5 2 】

一方、スクリーンセーバー 2 0 C に、他のスクリーンセーバー（コンテンツ）2 0 C を表示できるように、図 7 における通常のリンク 1 2 0 L を設けることで、更に他のコンテンツ 2 0 C も表示できる設定とすることも可能である。

【 0 0 5 3 】

即ち、表示されるコンテンツ 2 0 C の特性やユーザーの嗜好により、スクリーンセーバーの機能を優先するか、クリックしてコンテンツを表示するかを選択できる。

【 0 0 5 4 】

また、どのようなユーザーアクションをユーザーキャンセルアクションしてもどのウィンドウに復帰するかも、細かく設定できる。これらの設定は、スクリプト言語、又は、表示コンテンツにおいての記述方法でも行える。

【 0 0 5 5 】

実施の形態に係るコンテンツ表示方法は上記の如く構成されているので、以下に掲げる効果を奏する。

【 0 0 5 6 】

スクリーンセーバー設定ウィンドウ 2 0 S を利用し、端末 2 0 における W E B



ブラウザを用いてスクリーンセーバー 2 0 C の表示を行うことで、煩雑なソフトウェアのダウンロードやインストールの必要なく、容易に多くのスクリーンセーバー 2 0 C が表示できる。

【 0 0 5 7 】

スクリーンセーバー 2 0 C の表示は、設定ウィンドウ 2 0 S の起動中、即ち設定ウィンドウ 2 0 S が閉じられるまで有効であり、ユーザーによる端末処理におけるメインのウィンドウが表示する WEB サイトとは独立している。その結果、従来技術では自 WEB サイト内のバナーに関係する広告表示できなかったブラウザでも、他 WEB ページ表示時において、端末 2 0 に対して所定時間入力がなかった場合に、自動切換えによる広告表示を可能とし、WEB サイト 1 0 の提供者が希望する広告表示の機会を得ることができる。

【 0 0 5 8 】

なお、スクリーンセーバー（コンテンツ） 2 0 C のコンテンツデータ 2 0 DATA は、スクリーンセーバー 2 0 C の表示ごとに WEB サイト 1 0 から、端末 2 0 が受信するが、クッキー（c o o k i e s）などの一時記憶域にコンテンツデータ 2 0 DATA を記憶させて、これを利用することもできる。また、コンテンツ 2 0 C に音声・動画情報を含めることも容易にできる。

【 0 0 5 9 】

また、従来の WEB サイトにおけるウィンドウ 1 2 0 において、スクリーンセーバー設定ウィンドウ 2 0 S の機能を埋め込んだり、ユーザー ID ごとに、予め登録されたスクリーンセーバー（コンテンツ） 2 0 C の表示、又は、非表示をすることもできる。

【 0 0 6 0 】

なお、本実施の形態においては、本発明はそれに限定されず、本発明を適用する上で好適なコンテンツ表示方法に関する技術に適用することができる。

【 0 0 6 1 】

また、上記構成部材の数、位置、形状等は上記実施の形態に限定されず、本発明を実施する上で好適な数、位置、形状等にすることができる。

【 0 0 6 2 】

なお、各図において、同一構成要素には同一符号を付している。

【 0 0 6 3 】

【発明の効果】

本発明は以上のように構成されているので、以下に掲げる効果を奏する。

【 0 0 6 4 】

スクリーンセーバー設定ウィンドウを利用することで、煩雑なソフトウェアのダウンロードやインストールの必要なく、多種類のスクリーンセーバー表示をユーザー端末におけるWEBブラウザにて容易に行うことができる。

【 0 0 6 5 】

また、コンテンツを広告表示とすることで、他のWEBサイトによるコンテンツが表示されていても、スクリーンセーバー設定ウィンドウ（コントローラー）が表示されている（起動している）限り、広告の表示機会があり、また、ユーザーのマウスアクションやキーボードアクションが所定の時間に行われなかった場合に表示をするので、ユーザーによる本来の端末処理の邪魔をしない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態に係るコンテンツ表示方法を実行する構成の一例を示す図である。

【図 2】

図 1 の端末 2 0 側に表示されるウィンドウ 2 0 W の一例を示す図である。

【図 3】

図 2 のウィンドウ 2 0 W の設定リンク 2 0 L により開かれる設定ウィンドウ 2 0 S を示す図である。

【図 4】

図 1 の端末 2 0 に表示される別のウィンドウ 2 0 W 2 を示す図である。

【図 5】

図 1 における動作の流れの概要を示す図である。

【図 6】

図 5 のスクリーンセーバー設定ウィンドウ表示 A における動作の流れを示すフ

ローチャートである。

【図 7】

従来技術のWEBサイトにおけるウィンドウ 1 2 0 の表示例を示す図である。

【図 8】

図 7 のリンク 1 2 0 L から表示される他のウィンドウ 1 3 0 の表示例を示す図である。

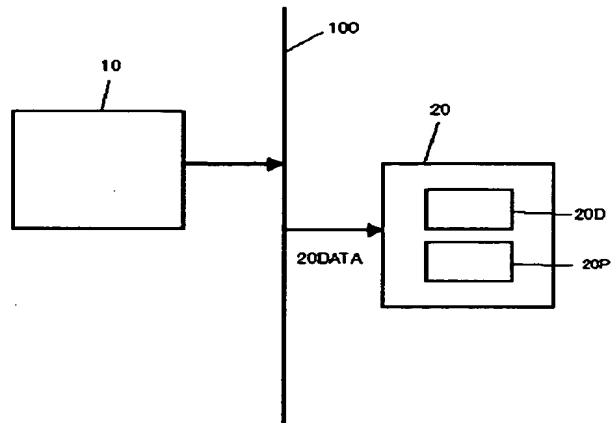
【符号の説明】

- 1 0 WEB サイト
- 2 0 端末
- 2 0 C スクリーンセーバー（コンテンツ）
- 2 0 D 表示装置（表示手段）
- 2 0 DATA コンテンツデータ
- 2 0 L 設定リンク
- 2 0 P スクリプト言語
- 2 0 S スクリーンセーバー設定ウィンドウ（コンテンツ表示設定ウィンドウ、設定ウィンドウ）
- 2 0 T 機能選択
- 2 0 U アイドル時間設定
- 2 0 W ウィンドウ
- 2 0 W 2 スクリーンセーバーウィンドウ（別のウィンドウ、ブラウザウィンドウ）
- 2 0 X テスト再生指示
- 1 0 0 インターネット
- 1 2 0 ウィンドウ
- 1 2 0 L 広告バナー（リンク）
- 1 3 0 広告WEBサイト（他のウィンドウ）
- A スクリーンセーバー設定ウィンドウ表示
- B スクリーンセーバーの機能をON

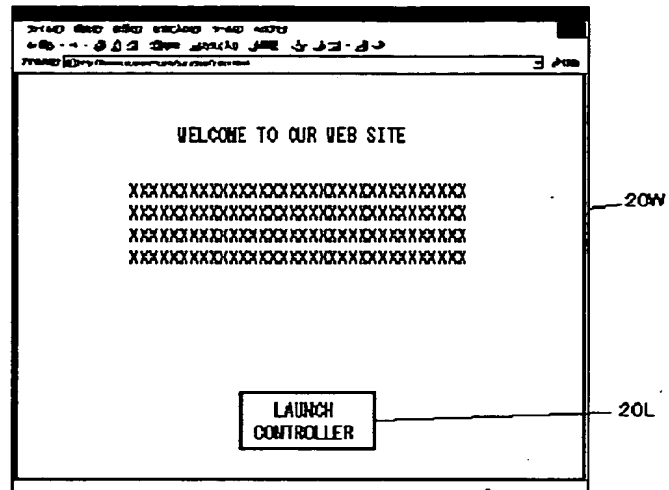
【書類名】

図面

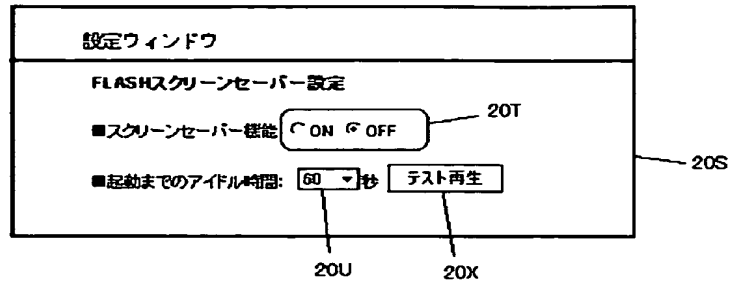
【図 1】



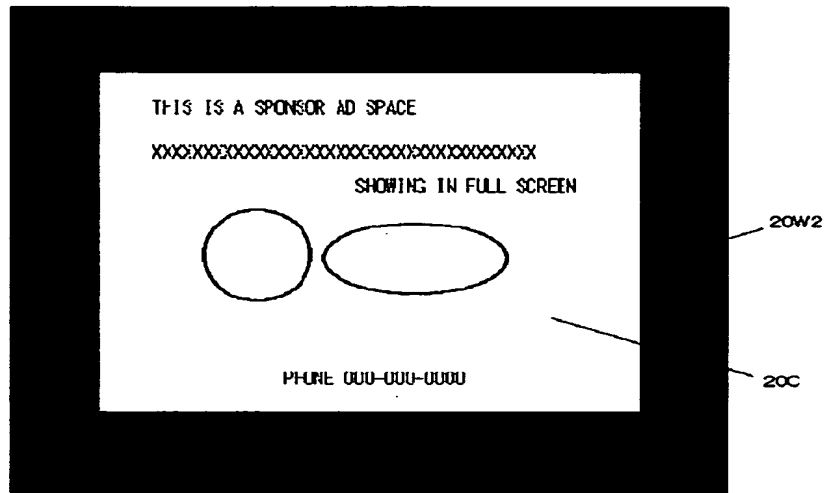
【図 2】



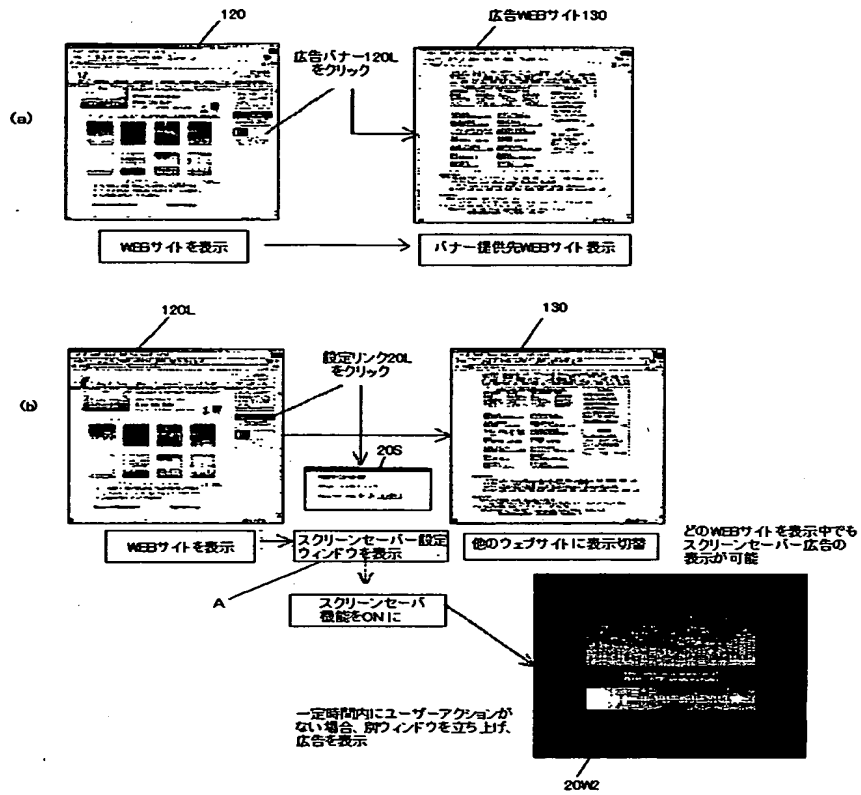
【図 3】



【図4】

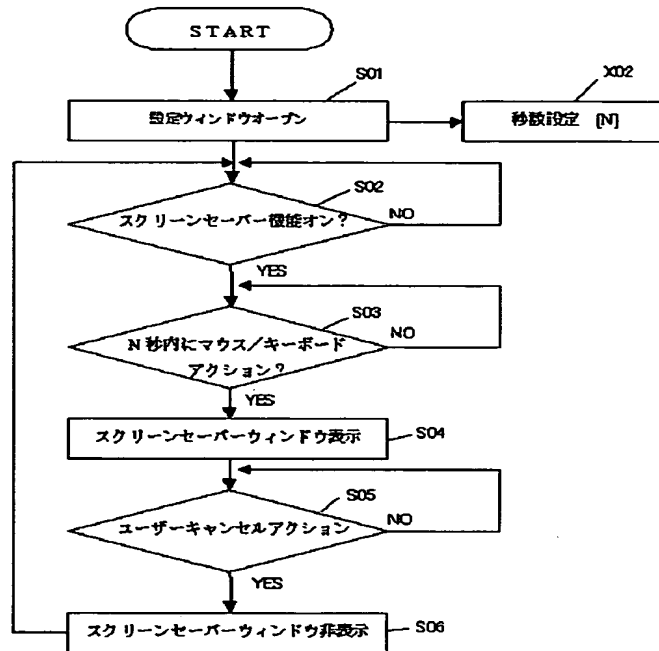


【図5】

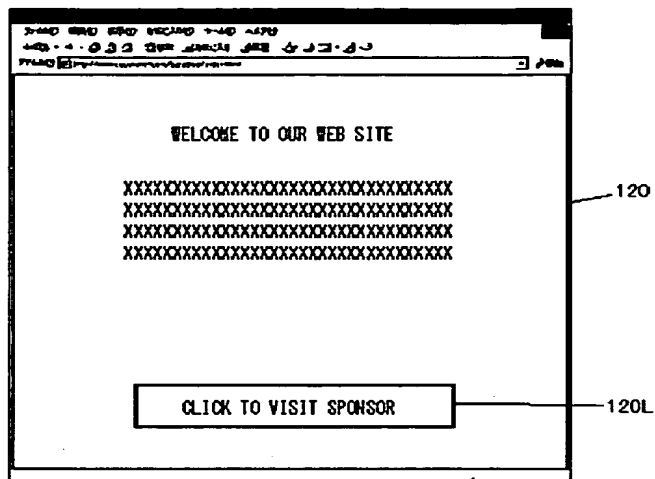




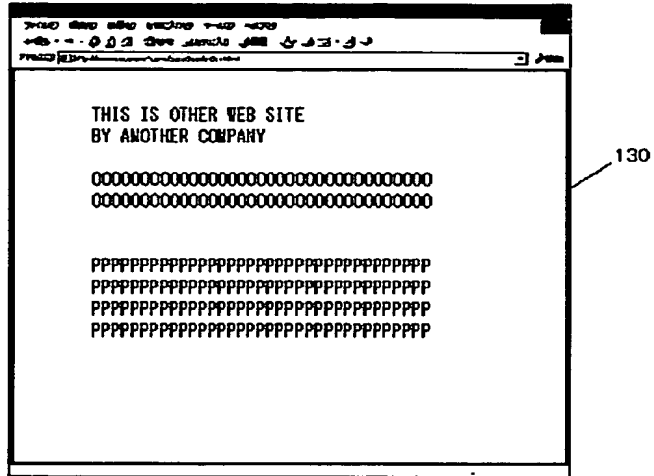
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】            要約書

【要約】

【課題】    スクリーンセーバー表示にユーザー端末におけるWEBブラウザを使用することで、容易にスクリーンセーバー機能を実現でき、また、他のWEBサイトを閲覧中でもユーザー端末に対して所定時間入力がなかった場合に、自動切換えによる広告表示を可能とし、広告表示の機会増大に繋げることができるスクリーンセーバーや広告などの表示するコンテンツ表示方法に関する技術を提供する点にある。

【解決手段】    図1に示すように、本実施の形態に係るコンテンツ表示方法を実行する構成は、動画面などスクリーンセーバー（コンテンツ）のコンテンツデータ20DATAを供給するWEBサイト10と、スクリーンセーバーを表示する表示装置（表示手段）20Dを備えるユーザーの端末20とで概略構成され、スクリーンセーバーは、端末20側のブラウザにおいて実行可能なスクリプト言語20Pにより表示を制御される。

【選択図】            図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-325631
受付番号	50101565297
書類名	特許願
担当官	小野寺 光子 1721
作成日	平成13年10月29日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】

500174801

【住所又は居所】

東京都渋谷区広尾1丁目16番2号

【氏名又は名称】

ココロネットワークス株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】

100097113

【住所又は居所】

東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル3  
5階 霞が関ビル内郵便局 私書箱第2号 堀国  
際特許事務所

【氏名又は名称】

堀 城之

【書類名】 出願人名義変更届  
【整理番号】 P01057  
【提出日】 平成13年12月18日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【事件の表示】  
    【出願番号】 特願2001-325631  
【承継人】  
    【識別番号】 501118901  
    【氏名又は名称】 アトムショックウェーブ株式会社  
【承継人代理人】  
    【識別番号】 100097113  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 堀 城之  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 044587  
    【納付金額】 4,200円  
【提出物件の目録】  
    【包括委任状番号】 0115140  
【ブルーフの要否】 要

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-325631
受付番号	50101851851
書類名	出願人名義変更届
担当官	小野寺 光子 1721
作成日	平成14年 4月22日

<認定情報・付加情報>

【承継人】

【識別番号】	501118901
【住所又は居所】	東京都港区赤坂2丁目17番地22号
【氏名又は名称】	アトムショックウェーブ株式会社
【承継人代理人】	申請人
【識別番号】	100097113
【住所又は居所】	東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル3 5階 霞が関ビル内郵便局 私書箱第2号 堀国 際特許事務所
【氏名又は名称】	堀 城之

【書類名】 手続補正書（方式）  
【提出日】 平成14年 3月 1日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【事件の表示】  
    【出願番号】 特願2001-325631  
【補正をする者】  
    【識別番号】 501118901  
    【氏名又は名称】 アトムショックウェーブ株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 100097113  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 堀 城之  
【発送番号】 013914  
【手続補正 1】  
    【補正対象書類名】 出願人名義変更届  
    【補正対象項目名】 譲渡証書  
    【補正方法】 追加  
    【補正の内容】  
        【提出物件の目録】  
        【物件名】 承継人であることを証明する譲渡証書 1



(A)10200400135



譲渡証書

平成13年12月17日

(譲受人)

住 所 東京都港区赤坂2-17-22

赤坂ツインタワー本館13階

名 称 アトムショックウェーブ株式会社 殿

(譲渡人)

住 所 東京都渋谷区広尾1-16-2

K&S恵比寿ビル11

名 称 ココロネットワークス株式会社

代表者名 代表取締役社長 井手 敏和



下記の発明に関する特許を受ける権利の一部を貴社に譲渡したことに相違ありません。

記

特許出願の番号

特願2001-325631

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2001-325631
受付番号	10200400135
書類名	手続補正書（方式）
担当官	小野寺 光子 1721
作成日	平成14年 4月10日

<認定情報・付加情報>

【提出された物件の記事】

【提出物件名】	承継人であることを証明する譲渡証書	1
---------	-------------------	---

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500174801]

1. 変更年月日	2000年11月28日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都港区芝大門1丁目16番2号
氏 名	ココロネットワークス株式会社

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [501118901]

1. 変更年月日 2001年 3月26日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都港区赤坂2丁目17番地22号  
氏 名 アトムショックウェーブ株式会社